

# 北東地協 ミニ教宣学校 内蔵取材と記事書きの実習



北東地協は6月4日～5日、横手市増田町、上畑温泉「さわらび」で北東地協ミニ教宣学校を開催し、7道県連・組合単組から39人が参加しました。

担当幹事の岩手県連 齊藤徳重会長は、「全国の中で地協として教宣学校を開いているのは北東地協だけです。今日と明日二日間ですが、新たな気持ちでミニ教宣学校を有意義に活用し交流を深めてください」と話し、地元から秋田建労 佐々木澄夫組合長が「増田町の蔵は「伝統的建造物群保存地区」に指定された素晴らしい建物です。見て聞いて取材したことを堂々と書いてください」と挨拶しました。

「記事の書き方について」と題し全建総連 山下正人教宣部長の講演終了後、取材場所の増田町「伝統的建造物群保存地区」へバス移動し、3班に分かれ観光ガイドとともに4ヶ所の内蔵を回り取材活動しました。



歓迎の挨拶をする佐々木組合長



メモを取りながら熱心に聞いていました。



「記事の書き方について」全建総連 山下正人  
教宣部長が講演、「仲間に伝える記事」を書く  
ことを第一に、機関紙の役割と目的、記事の基本  
的書き方と取材のコツを学習しました。



ピンクのTシャツが良く似合う観光ガイドの  
三人娘？



レジメも参考に講演を聞く参加者の皆さん。



母屋と内蔵の脇には長い通り土間があり「鞆」  
と呼ばれる上屋建物で覆われていて、豪雪や雨  
風から蔵を守る構造にも職人の技と工夫を見る  
ことが出来ました。



取材活動、ガイドさんの説明を聞きもらずメモ。記事書きの基本です。



内蔵の取材ですが、敷地や周りの紀行・風土も取材には必要です。



個別に質問をしてメモ。遠慮せず聞き逃した  
こと、解らないことは質問して書き残します。



説明を聞きながら、写真をとることも大切です。



狭い場所、人数が多いときは遠慮せず前に進  
み説明を聞くことが取材時のコツです。



全体を撮るか、ズームで撮るか悩みます。



何を撮るのか、被写体もハッキリ絞り込んで撮りましょう。



さすが青年部。下書きナシで一筆勝負。大丈夫かな？



各自、部屋に戻りメモを参考に記事書きスタート。構想を練りながら下書き真最中。



夕食時間になり全員揃って乾杯！交流会の始まりです。しかし記事書きが終わっていない人がほとんどで、食事後にみなさん頑張りました。



取材メモの確認にパンフレットを活用し取材の補足資料に役立てる時もあります。

ただ、し教宣大学ではパンフレットの活用を禁止する講師の方もいます。



二日目、前日取材し作成した記事を提出後、「明日から実行 明るく楽しく機関紙活動」と題し山下教宣部長の講演。機関紙「全建総連」6月1日号とレジメを基に機関紙に求めているもの、活動の大切さ、写真の撮り方などの解りや

すぐ解説がありました。





各県連代表が順に持ち寄った機関紙の発行状況や紙面構成などについて発表後、山下部長から各紙に適切な講評と斉藤会長より投稿写真の注意点について助言をいただき、全日程を終了しました。

